

下関西高等学校 進路だより

令和7年1月号 進路指導部

～3年生は本番に向けて追いこみです！！～

3年生はいよいよ、共通テスト直前も終わり。ここからは一般選抜型入試に向けて突進あるのみです。本校は多くの生徒が国立大学を志望していますが、私立大学との併願をしている生徒も沢山います。併願している生徒は入試スケジュールも念頭に置きながら国公立前期日程への準備も戦略的に考えてください。中途半端な準備とならないよう、十分な準備をして「これで不合格なら仕方ない！！」と思える所まで詰めていってください。この経験が次への自信に繋がっていくことは間違いありません。逆に、それがないと次の環境でも信じられるものがないまま日々がなんとなく過ぎ、本当の意味での自信が持てなくなると私は思っています。ぜひ、君たちの充実した人生に繋がるように、できることは何でもしますので遠慮なく声をかけてください。

さて、今回は難関国立大学の共通テストを含めた動向についての報告を共通テストリサーチ前年比志望者指数と第2回ベネッセ・駿台記述模試のB判定偏差値を中心に行いたいと思います。なお、今年度はベネッセと河合塾が共同で自己採点を集約した結果、回収人数が5%以上増加しますので、志望指数は105が前年並みだと判断してください。

★難関国立大学について

国立大学(東大、京大、北大、東北、東工大、一橋、名大、阪大、神大、九大の難関10大学について)

難関10大学の前年度と比較しての志望者指数は105と昨年並みですが、上位者は得点が出ているので強気の動向となっています。今年度の人気系統は文系では経済学部、理系では医学部医学科と農学部です。難関大学においても、卒業後の進路が比較的イメージしやすい学部系統での志望者が増えてきています。

・**最難関の東大**では今年度から第一段階選抜が文科類で従来の3.0倍から2.5倍へと理Ⅰが2.5倍から2.3倍、理Ⅱが3.5倍から3.0倍へと厳格化されるという大きな入試変更点があります。理Ⅲは3.0倍のままですが、共通テスト対策が今までより重要となったことは否定できませんが、入試難易度に大きな影響は今のところ無さそうです。なお、今年度のベネッセの第一段階選抜予想通過得点ラインは文Ⅰ810、文Ⅱ815、文Ⅲ800、理Ⅰ840、理Ⅱ835、理Ⅲ790です。二次試験の倍率は例年より低くなる学類もあり、一次を通過した生徒全員にチャンスがあると考えていいと思います。一方、志願者指数は文Ⅰ、文Ⅱ113、文Ⅲ108、理Ⅰ101、理Ⅱ113、理Ⅲ97となっています。文Ⅲは今年度も上位層は少なくなっていますし、理科系では理Ⅰの志望者が少なくなっています。理Ⅱは志望者指数が増えています。共通テスト後の理Ⅰ志望者の流入が例年、多いので注意が必要です。理Ⅲは模試ではほとんどの志望者がD判定となっていますので強気の出願が必要かと思えます。

・**京大**は東大の第一段階選抜の厳格化の影響で流入が予想されていますので、注意が必要です。志望者指数は人文126、法130、経済経営文系117、経済経営理系133、教育科学文系106、教育科学理系100、総合人間文系157、総合人間理系111、理120、工全体で118、医学部医学科114、医学部人間健康科学125、薬学部115、農全体で110となっており、今年度の京大は模試段階継続して志望者が集まっております。ベネッセ・駿台記述模試偏差値の目安は70以上となっていますが、系統によっては偏差値60台からでも逆転は十分あります。また、京大では第一段階選抜が実施されるので可能性がある系統について注意が必要です。法学部はC判定値付近の受験生が密集しています。個別試験の比重が高いですが、文系学部は共通テストで高得点を取っていれば、個別試験で不安があっても合格をしている可能性が高いです。また、経済学部文系の志望者指数は高いですが、増加している層はD判定付近で合否に大きな影響はなさそうです。志望変更先としては、阪大経済の人気が高くなっているので神戸、大阪公立や京大の総合人間が候補となりそうです。理系では工学部の配点変更により共通テストで差が付きにくくなっています。京大は第二志望まで書けるので、京大に執着している生徒は

(次のページへつづく)

より慎重な志願戦略が必要となりますが、入試本番での合格最低点は高い方から情報工、物理工、建築学、電気電子工、地球工、工業化学の順となっていますが、情報工と工業化学では総合得点で80点以上の開きがありますので参考にしてください。同様に農学部も第6志望まで書けるので今後の動きに注意が必要です。なお、得点開示から理学部は数学と理科、薬学部は国語と英語が得意な生徒が合格している傾向が見られます。

- **理系上位が続いていた北大**では、今年度は文系のほとんどの募集単位で志望者が増加傾向となりましたが、共通テスト後も継続して強気な志望となっていますので注意が必要です。志望者指数は、文109、法117、経済125、教育103、総合文系115と増加している系統が多くあります。共通テストのB判定値は、文、法、経済、総合文系で82%、教育で78%と予想しています。昨年は2年連続で難化した反動で数学の問題が易化したため合格者最低点が100点以上高くなっている学部がある点に注意が必要です。したがって、数学の過去問対策は4年以上前までさかのぼる必要があります。理系は総合理系が志望指数112と増加が目立っています。総合理系の重点群別では、数学重点で志望者指数158と大幅に増加していますので今後の流出先に注目しておく必要があります。併願校としては東北大、筑波大、千葉大、横浜国立大が多いです。理系学部は募集が特殊なので出願を考える場合には募集要項を熟読してください。また、理科で大きな差がついており、北大理系については理科の得点力を安定させておいた上で、数学の対策を十分に行う必要があります。なお、北大は全国から受験生が集まっていますが、最近では東京、愛知からの流入が増えています。
- **東北大**は一般選抜における入試の配点が大きく変更しているため募集要項による十分な確認が必要です。志望指数は文系では文97、法110、経済110、教育科学107となっています。経済人気は東北大学でも健在ですが、地域別では埼玉、群馬、東京など関東圏で増加しています。なお、併願先としては北海道大経済、千葉大法経、横浜国立大経済を視野に入れている生徒が多いです。理系では理学部志望指数が全体で120、工学部も全体で118とそれぞれ増加しています。理学部を学科別に概観すると、物理、生物で増加、数学、化学ではほぼ前年並みとなっています。医学部では医学科、看護学科で増加が目立っており、それぞれ志望指数112となっています。一方、農学部も110とやや増加しており、東北大の理系系統の人気さがさらに窺えます。また、理学部では募集人数が多い物理が、工学部では機械知能・航空と建築に志望者が集まる傾向にあります。理学部、工学部ともに都道府県別では東京都の志望者が増加しています。東北大の理系学部は北大とは違い、英語の成績が明暗を分ける傾向が見られるので英語の十分な対策が必要となります。
- **一橋大**の志望者指数は法100、経済180、商114、社会93、ソーシャル・データサイエンスで学部間の格差が大きいのが特徴です。一方、共通テスト B 判定得点率は法86%、経済85%、商85%、社会87%、ソーシャル・データサイエンス86%と大きな開きはないですが、東大文Ⅱや早慶との併願関係が強まっているので注意が必要です。なお、新設2年目のソーシャル・データサイエンス学部は昨年の模試の段階では受験生への周知が遅れていましたが、今年度は周知も進み志望者が増えています。難化はしていないようです。また、この学科は理系からも受験可能で昨年度入試では後期の合格者のほぼ全員が理系志望者でした。経済学部は全体で大幅に増加しており、特にボーダーライン付近の志望者が増加しているようですが、こちらも難易度に変化はありません。
- **東京科学大**の理工学系の指数ですが、10月の模試では全学院で人気上昇していましたが、共通テスト後は理学院 118、工学院 105、物質理工学院 103、情報理工学院 117、生命理工学院 101、環境・社会理工学院 80 と学院間の差が激しくなっています。なお、総合型選抜での女子枠での拡大に伴って募集人員の変更があるので注意してください。
- **名大**の文系学部では10月模試と同様、ほぼ全ての学部で志望者が増加しています。まず、文学部は志望者指数が2年連続で減少していましたが、今年度は118と揺り戻しが起きています。都道府県別では愛知、岐阜県以外の志望者が多くなっています。また、個別試験では地歴 B で差がつきやすくなっています。教育学部は共通テストの B 判定値は81%ですが、個別試験の配点割合が高いので共通テスト後の流入に注意が必要です。経済学部は志望者指数 119と大きく増加し昨年度の82からの反動が見られます。上位者層も B 判定値の生徒が増加しています。B 判定値は81%程度が予想されていますが、例

(次のページへつづく)

年、数学・英語で大きな差がついています。法学部の志望者指数124で秋よりも大幅に増えています。理系学部では工学部の人気学科である機械・航空宇宙工の志望者指数が 111 で倍率も最近は2.5倍前後と安定しており、B 判定得点率も他の学科が81%程度に対し、85%と高くなっています。また、人気が高い情報学部ではコンピュータが志望者指数 123、B 判定得点率は 86%と非常に高いです。農学部は共通テスト得点率75%が出願の目安となりそうです。

・**阪大**は学部によって志望動向が大きく異なる結果となっています。外国語学部の学部全体の志望者指数111とやや増加しています。専攻別で隔年現象が起こりやすいので注意してください。欧州系言語専攻は倍率が低いですが成績レベルが高く、アジア系言語専攻は倍率が高いですが成績レベルは低い傾向にあります。とにかく阪大で外国語を学びたいと考える受験生が専攻を選ぶ際には各専攻の最低得点推移、倍率推移、募集人員に注目する必要があります。また、二次試験の配点比率も高く、特に英語の配点が300点と国語100点、世界史もしくは数学100点に比べると非常に高いことを考えると英語が得意な生徒は、諦めずに取り組めばチャンスは大きいと思われます。経済学部は志望者指数131で上位層も厚く、共通テストの B 判定得点率も87%と高くなっており難化傾向となっていますが、記述力に自信があれば十分に逆転できます。工学部の指数109、基礎工98と阪大では工学関係の人気が低下しています。両学部では昨年度と似た分布となっているので昨年度の入試結果が参考になると思われます。後期の併願先として京都工芸繊維大学が候補となっているケースが多かったですが、工芸繊維大が後期の募集を廃止したため、後期の出願先に大きな変化が予想されるので、出願の際には注意が必要です。なお、今年度の併願候補先としては大阪公立の中期日程、広島大、名古屋工大、横浜国立大の後期日程があがっています。

・**神大**は大きな募集変更があります。主なものとしては工学部情報知能工学科がシステム情報学部へ改組され、医学部の中に医療創成工学科が新設された点です。医療創成の入学定員は一般前期だけの募集で25名となっています。同じく医学部保健学科看護学専攻では募集人員の変更があり、全体の募集人員が80名から70名と減少し、一般前期で63名、総合型で7名を募集しています。志望者指数は人文99、法120、経済113で経済学部では数学科型が106、英数型が105、総合型が114となっています。また、経営学部は108となっています。国際人間はグローバル121、子ども教育125、発達コミュニティ110、環境共生文科系76、環境共生理科系102となっています。理系学部では理学部が全体で109、工学部が全体96、医学部は医学科100、保健／看護学101、保健／理学療法117、保健／作業療法71、保健／検査技師100、農学部90、海洋政策85となっています。文系理系とも神戸大の人気のやや低下してきていますが、京大全体と阪大の経済学部の人気今年度は特に高いため、前期日程から神戸大学への流入が予想されるので、今後の動向に注目してください。全国的に人気上昇している経済学部では B 判定以上が混雑していますので注意してください。なお、例年は共通テスト70%台後半、個別模試偏差値65以上が出願の目安となっています。経済学部は選抜方式が3つあり、総合選抜に出願すれば3方式で選考されますが、合格最低点に大きな差がありますのでホームページなどで確認しておいてください。経営学部では共通テストのみの成績で優先的に30%選抜し、個別試験の成績のみで30%選抜されるので、共通テストもしくは個別試験、どちらかが抜群に得点率が高ければ合格できる方式となっています。

・西高からの志願者が多い**九大**は前後期ともに志望者指数は増加傾向にあります。文系の学部系統別の志望者指数は人文(前)113(後)108、法(前)106(後)103、経済・経営(前)137(後)122、経済工(前)112(後)89、前期のみ募集の教育は116、共創は107となっています。理系の学部系統別志望者指数について、理学部では前期全体が112となっています。学科別では数学110、物理144、化学91、生物114、地球惑星科学109と物理の人気の目立っています。後期では全体は104となり、学科別では数学は募集が無く、募集がある物理が105、化学75、生物154、地球惑星科学135と学科間の人気に大きな差があります。工学部前期は全体では117と増加傾向となっています。群別ではⅢ群112、Ⅵ群110、Ⅰ群114、Ⅳ群109、Ⅴ群139Ⅱ群129と全ての群で増加しています。後期は全体110で群別ではⅢ群100、Ⅵ群140、Ⅰ群110、Ⅳ群98、Ⅱ群113となっています。大橋キャンパスの芸術工学部は前期全体が110、学科別では芸術／メディア101、芸術／音響設計が138、芸術／環境設計

(次のページへつづく)

が157、芸術／インダストリアルが105、芸術／未来構想が133となっています。芸術工学部は後期日程の募集が無いので注意が必要です。病院キャンパスの医学部学科別前期日程では生命科学が65と現状では人気が無いのが目立っています。その他は医学科108、保健／看護学84、保健／放射線100、保健／検査技師89となっています。歯学部112、薬学部は創薬科学99、臨床薬93と志望者は集まっています。農学部は前期が119、後期が92と前期後期の日程間で大きな開きがあります。前期日程のボーダーや併願状況については人文学部ではB判定値得点率79.3%、共通テストがC判定の受験生がドッキング判定でB判定になるためには、記述模試において偏差値65前後が必要だと予想されています。また、個別試験において、合格者と不合格者で最も差がついているのは地歴・公民で次が数学となっています。法学部はB判定値得点率80%、共通テストがC判定の受験生がドッキング判定でB判定になるためには、記述模試において偏差値65が必要だと予想されています。経済学部人気の影響で法学部は易化傾向にあるので初志貫徹を貫くことが大切です。また、例年と同様、熊本大学法学部や広島大学法学部との併願関係が強いです。経済・経営学部では目安としたい大学B判定値得点率は81%、共通テストC判定で、ドッキング判定でB判定になるためには、第2回ベネッセ・駿台記述模試において偏差値68が必要だと予想されています。こちらは激戦が予想されるのでしっかりと準備して臨むことが重要です。理学部では数学科に注目が集まっていますが、こちらの共通テストBボーダー得点率は81%。共通テストC判定で、ドッキング判定でB判定になるためには、10月のベネッセ・駿台記述模試において偏差値61が目安になります。工学部は過去3年の入試結果を概観すると、合格者最低点が最も低いのはVI群となっています。一番人気はI群です。なお、I群は計算機工学。電子通信工学、「電気電子工学」の3学科があり、工学部の中でも合格最低点が比較的高い学科となっており、人気も非常に高い学群です。II群は材料工学科、応用化学科、化学工学科、融合基礎工学科ですが、II群の融合基礎工学科からは物質材料コースしか入れないので、出願の際には注意してください。III群は同じく融合基礎工学科、機械工学科、航空宇宙工学科、量子物理工学科です。気づいた生徒もいるかと思いますがIII群にも融合基礎工学科はありますが、III群からは機械電気コースにしか入れないのでこちらも注意してください。IV群は船舶海洋工学科、地球資源システム工学科、土木工学科、IV群は船舶海洋工学科・地球システム工学科・土木工学科の三つのコースがありますが、こちらのコースはエネルギーや自然の原理などについて専門的に学びます。九大工学部にどうしても入学したい生徒はIV群が過去3年の合格最低点が低くねらい目です。V群は建築学科のみとなっています。建築を全般的に学ぶコースで、建築家の育成だけでなく建築に関する技術者や研究者を輩出しますが募集人員が前期のみ46名と少ないです。VI群は特別な学群で入学時には学科群が未定で、入学1年後に学科群を選択できる入試選抜の枠組みです。より多くの正確な情報に基づいて進路を考え、学科群を選択することができます。ここでは「各学科の分野紹介の講義」を聞けるほか、「先輩との交流会」で先輩に尋ねたり「研究室見学会」で研究室を自分の目で見てその場で質問したりできるため、学科群の有用な情報を得ることができます。なお、1年次は全ての学科群で「工学部共通教育科目」を履修するため、I群からV群にかけての大学生に比べて学習面で不利が生じることは全くないそうなので、安心して受験してください。芸術工学部では音響設計コースの合格最低点が最も高くなっていますので参考にしてください。医学部医学科は志望者がやや増加していますが、B・C判定ラインの人数は昨年より30名程度少ないですが、定員105名に対して、C判定以上の人数は103名となっており、激戦が予想されます。なお、2段階選抜の実施基準は倍率2.5倍であり、現状は3倍ですが、第1段階選抜の通過予想ラインは780点をベネッセは予想しています。保健学科看護学は易化が予想されていますが、合格の鍵になる教科は圧倒的に英語となりますので、読解問題、英作文ともに十分な添削指導を受けることを奨励します。歯学部は10月の模試と同様の志望動向を示しており、特に上位層の増加が目立ち難化傾向を示しています。薬学部の創薬では上位層がやや薄く、今年度はチャンスの年になりそうですが、臨床薬学科は志望者が減少していますが、上位層は厚いので創薬学科と逆に油断大敵です。農学部の秋の模試より志望者が集まっており、上位層も得点を取っていますので、要注意です。

以上、難関10大学の共通テスト直後の動向です。ここからも受験生の出願状況には変化が生じてくるのであくまで、合格通知を手にするまでは集中して学習に取り組んでください。

(文責・松村)